

4.3. 中期的観点からの計画案(5年以内)

中期的観点としては、ADB - GEF黄砂対策プロジェクト(フェーズ2)が終了し、その後の具体施策の実施の促進という観点からの施策が必要である。この際、フェーズ2は終了しているものの、地域協力としての枠組みが継続されるよう、何らかの実証調査が必要であろう。

4.3.1. モニタリングと早期警報

(a) 国内モニタリングネットワークの運用と国際ネットワークの整備促進

国内・国際を含めて、可能な部分から情報のリアルタイム共有を進める。例えば、日本と韓国で整備されたモニタリング機器を結んでリアルタイム共有のモデルとして先行させ、徐々にその範囲を広げていくことも一策である。

また、モニタリングネットワークの運営を行う人材の育成を進め、ネットワークが適切に維持管理できるように訓練する。

モニタリングネットワークを運用するに当たっては、研究ベースからルーチンベースの観測体制へと組織・責任形態の改変が必要となる。そのための準備と配慮事項を整理する必要がある。

(b) 黄砂の発生及び輸送モデルについての技術開発及び改良

黄砂の発生及び輸送モデルについて、その現状、精度向上及び検証等今後検討すべき内容についてまとめる。また、モデル精度に影響を与える不確定要素を減少させ、今後の濃度予報に向けたモデルの更なる精度向上のための研究を推進する。

4.3.2. 黄砂発生源対策

(a) 発生源対策モデル事業の実施

黄砂対策としての優良事例の一例となるようなモデル事業を、中国あるいはモンゴルにおいて実施する。モデル事業は、研究レベル、実務レベル、普及レベルの複数のコンポーネントより構成し、多方面からのアプローチを図ることが考えられる。また、自然科学的な面に偏ることなく、社会経済面、生活面からの視点も加えることが重要である。

(b) 黄砂の被害や影響の把握と発生源対策の評価手法(経済評価を含む)提案

黄砂被害情報を収集し、その影響の規模を推計するとともに、対策による効果を予測する手法を提案する。それらの調査・研究成果に基づき、黄砂発生源対策の評価手法をとりまとめる。